

THE ROTARY CLUB OF TOTTORI NORTH

## 鳥取北ロータリークラブ

2019  
2020

国際ロータリーのテーマ

会 長……小林 弘尚 副会長……宮崎 正彦 幹 事……松本 啓介  
 会 計……入江 容子 SAA……千金 周一 活動記録担当リーダー……森下 泰年



例会場: ホテルモナーク鳥取 例会日: 火曜日12:30~13:30

Tel.24-3536 Fax.29-6741

■創 立: 昭和36年2月23日 ■事務所: 鳥取市扇町22-1 山陰合同銀行鳥取駅南ビル

E-mail kitarc@infosakyu.ne.jp http://www.infosakyu.ne.jp/kitarc/

2019年12月3日(火) 第2853回  
 ◆君が代・奉仕の理想 ◆年次総会  
 ◆献立 和食 ※例会終了後、定例理事会1階「梨花の間」  
 ◆委員会事項  
 誕生日御祝

2019年12月10日(火) 四つのテスト 第2854回  
 ◆ロータリーソング ◆卓話「鳥取城跡復元整備事業」  
 我らの生業 鳥取市教育委員会文化財課  
 ◆献立 米山ミール 文化財専門官 佐々木孝文氏  
 ※例会終了後、60周年実行委員会「梨花の間」

## 先 週 の 例 会

2019年11月26日(火)

## 会長挨拶

先日、ラジオ深夜便(NHK)という雑誌で、柏木哲夫氏(淀川キリスト病院 名誉ホスピス長)の投稿された「いい終末を迎える笑いの力」の記事を読む機会がありました。その際、新鮮な感動を覚えたので、今日はその内容についてお話しします。

これまで約2500名を看取った柏木さんが、患者さんとのやり取りで大切にしているのがユーモア。その架け橋は川柳です。終末、患者に何故ユーモアが大切なのか？

笑いが心身の健康に好影響があることは科学的に証明されています。笑う習慣をつけると、うつ

病の回復が早いという心理的効果(ユーモアセラピー)があります。「寝てみれば看護婦さんみな美人」とは、ある終末患者の句。すかさず横のナースが「じゃあ座ったらダメなの？」と突っ込み、家族も含め大爆笑、雰囲気明るくなりました。死が間近でも人間は笑えるんだと知った体験でした。「がん細胞正月ぐらい寝て暮らせ」「腹割って話してわかった腹黒さ」こんなやり取りの中で、笑いたい患者さん、家族がいます。

笑いとは、人間が神様から与えられた宝物です。ユーモアとは「愛と思いやりの現実的表現」なのです。

## 幹事報告

## 1. 到着文書

1) ザ・ロータリアン誌 12月号

## 2. 例会変更・メーキャップ情報

クラブ名	日にち	受付会場
鳥取西RC	12.20(金)	ホテルニューオータニ鳥取
鳥取中央RC	12.23(月)	ホテルニューオータニ鳥取
倉吉RC	12.24(火)	倉信うつぶき支店
倉吉中央RC	12.18(水)	倉吉シティホテル
米子RC	12.20(金)	ANAクラウンプラザホテル米子
米子中央RC	12.5(木)	ANAクラウンプラザホテル米子
	12.19(木)	
米子南RC	1.9(木)	ANAクラウンプラザホテル米子
	1.6(月)	
境港RC	1.27(月)	ANAクラウンプラザホテル米子
	12.17(火)	

## 委員会報告

## ◎出席率報告

11月26日 会員47名中 欠席13名 72.34%

11月12日 補正後 欠席12名 74.47%

## ◎青少年奉仕田中リーダーより

11/28(木)午後7時より、白岩事務所にて鳥取ローターアクトの会合がございます。メー

キャップにもなります、是非ご参加ください。

◎クラブ運営委員会福田委員長より

12/17(火)年忘れ家族会参加のお願い

ビジター

鳥取西RC 森下哲也さん

\*スマイル報告(本日9,000円 累計189,000円)  
 森下哲也さん(鳥取西RC) 久しぶりにお世話になります。

小林弘尚さん 先日の里山整備事業参加の皆様、大変ご苦勞様でした。参加した子供たちの生き活きとした表情は印象的でした。やはり子供はいつの時代も、自然の中での活動が一番似合います。  
 松本啓介さん 先週の里山整備事業に参加しました。逢坂小学校の全校生徒が教育の一環として竹林を伐採した後にクヌギを植えました。東部森林組合とのコラボですが、気持ちの良い時間を過ごしました。

田中和夫さん 先週金曜日の里山整備事業に参加の皆様、お疲れ様でした。

田中英剛さん 先般宣伝させて頂きました御詠歌コンサート「阿字の道」も多数の来場者を確保させて頂きました。若干ゆとりもありますので、

お時間があります方は是非足を運んで頂けたらと思います。

無届欠席 1件

\* 2大御祝 (本日 4,000円 累計 56,000円)

植田哲朗さん 入会記念日御祝

秦野諭示さん 誕生日御祝

## 卓話

### 地区補助金プロジェクト活動報告

#### 【鳥取県東部地区で行う里山整備事業】

田中和夫さん

本年度の地区補助金プロジェクト事業の里山整備事業が、先週の22日の金曜日に気高町山宮地内の山林で開催されました。この地区補助金を活用した里山整備事業は今年度で3回目となります。本年度は逢坂小学校の全校生徒約30名、先生、東部森林組合、鳥取北ロータリーの会員あわせて約55名で、クヌギの苗木を180本植樹しました。事前に東部森林組合さんに竹を伐採して、植樹場所の穴を掘ってもらい、土も準備して頂きました。今回は初めて雨天のため延期となりましたが、当日は曇りでしたが寒くもなく、ちょうどよい気温で足元も悪くなく気持ちよく作業をさせて頂きました。

初めに小学校で開始式を行い、小林会長、校長先生に挨拶して頂きました。その後、歩いて5分くらいの山林に移動して、東部森林組合の方の植樹方法の説明をしてもらい子供たちと一緒に植樹を開始しました。東部森林組合に伐採した竹で作ってもらった標柱に事前に子供たちの名前を書いてもらい、植樹した苗木の横に打ち付けました。我々は4班に分かれた子供たちのサポートをしました。時間は予定通りの時間で終わり、記念写真を撮り、学校にもどり、最後に鳥取北クラブと東部森林組合さんから記念品の贈呈をし、生徒代表挨拶、東部森林組合の嶋沢組合長にご挨拶を賜りました。今回もケガもなく無事終了しました。子供たちには思い出となり、竹林整備による自然環境保全の大切さを感じて頂けたと思います。

広報として、今回は日本海新聞、読売新聞に掲載され、いなばびよんびよんネットで水曜日・木曜日と放送をしてもらいます。

#### 里山整備事業の竹林整備についてと植樹の説明

山間地域では、戦後、収益性の高いタケノコ経営が盛んとなり、モウソウチクが積極的に植えられてきました。しかし近年では輸入タケノコの増加や竹製品の利用の減少、さらに担い手の減少などで放置される竹林が増えています。放置竹林の竹の根は周囲へと侵出し、そこに生育する樹木の健全な成長を阻害します。また、多くの植物は竹より背が低いために陽光を遮られ、やがて枯死していきます。人間の活動によって維持されてきた里山の生態系とそこに生育する植物や動物、里山独特の生物多様性が失われつつあります。そのため、里山整備として竹林を伐採しクヌギの苗木を植えることにしました。クヌギは成長が早く植林して15～20年程度で伐採して木材として利用で

きるようになります。伐採しても切り株から萌芽更新が発生し、再び数年後には樹勢を回復する。持続的な利用が可能な里山の樹木の一つで、材質は硬く、建築材や器具材、車両、船舶に使われるほか、シイタケ栽培の原木に利用できます。今後もこのような持続的な利用が可能なクヌギを毎年植樹し、里山の整備につなげればよいと思います。

#### ロータリー財団の地区補助金について

(ロータリー財団月間)

ロータリー財団とはR I 第6代会長アーチ・クランプ氏が1971年の国際大会で提案したものです。「ロータリーが基金をつくり、全世界的な規模で慈善、教育、その他の社会奉仕の分野で、何か良いことを使用ではないか」と提案し、その基金として発足した非営利財団法人です。ロータリー財団のプログラムは3つあります。ロータリーの最優先項目で、ポリオ常在国、ウィルス流入国、高リスク国を中心とした世界のポリオ根絶のための取り組みである『ポリオプラスプログラム』、世界に6つあるロータリー平和センターの1つで、国際関係、平和、紛争解決とその関連分野で学ぶ学生への奨学金の『ロータリー平和フェローシップ』、そして人々により良い生活をもたらす、地域社会に貢献するロータリアンの活動を支援する『地区補助金・グローバル補助金』があります。

今回の事業で利用しています地区補助金は小規模・短期のプロジェクトで地元または海外での活動とされていますが、第2690地区では「地区で良いことをしようの精神で地区内実施プロジェクトとする」とされています。地区補助金受託の条件として、ロータリー財団の使命に関連していること。ロータリアンが積極的に参加すること、地区ルールとして会員が汗を流すこと等明確に示せるようなプロジェクトとする。また、ロータリアン、その家族は受益者にはなれません。毎回、受益者が同じプロジェクトは申請できません。

2690地区の前年度地区補助金プロジェクト申請数は33件。プロジェクト総額が100万円くらいの事業も1件あり、ほとんどのクラブの事業は小・中・高校生と一緒にを行うような事業でした。第1グループの中では、我々鳥取北クラブと鳥取クラブの2クラブが申請していました。

いよいよ次年度の地区補助金管理セミナーが12月に開催される時期となりました。次年度にこの財団事業を行うかわかりませんが、補助金の有効な活用を考えて頂ければと思います。



(担当 森下泰年)